「何しとるんや」から一歩ずつ。あちこちで始まる、集いの記録

石川ひとつなぎ

全国災害ボランティア支援団体ネットワーク
（JVOAD）

【はじめに】

今日と明日の楽しみを積み重ね、一歩ふみ出す道の横に、そっと花を添えるように

石川県の「能登半島地震地域コミュニティ再建事業」は、地震で失われた地域のつながりを結び直すため、多様な催しを通じて被災した方々が外に出るきっかけを作る全国で初めての試みです。行政や県や各市町の社会福祉協議会、地域支え合いセンター、支援団体などが手を取り合い、一人ひとりそれぞれの歩みに寄り添っています。

2,000 回を越える多様な集いで、一歩外へ出るきっかけを

令和６年能登半島地震で、多くの方々が慣れ親しんだ地域を離れ、仮設住宅などでの新しい生活を余儀なくされました。行政では社会福祉協議会、地域支え合いセンターと連携しながら一軒一軒を訪問して、被災者の状況を確認し、日々のお困りごとを伺う見守り活動を続けています。一方で、特に仮設住宅では、隣に住む人と打ち解ける機会も乏しく、地域のつながりができにくい。先の見えない不安は募り、おのずと引きこもりがちになることから、体力の低下や、心身の不調を防ぐことが求められました。そこで、被災者が家から外へ出て、誰かと触れ合う機会を作り出すために、石川県が新しく取り組んだのがこの地域コミュニティ再建事業です。

マジックショーやカラオケ、体操教室、菜園づくりなど、メニューづくりの検討段階では、各市町を訪問し、日々の見守りや相談を通じて被災者の一番近くで寄り添っている方々の声に耳を傾けることを徹底しました。現在では 60 以上の多種多様なメニューを用意し、県内全域を対象に各地で開催しています。

地域の方とお話をしていくうちに、まず「心の復興」が必要だと感じるようになりました。大きな未来の計画を描くことだけがすべてではない。家を失い、人間関係も変わった状況では、目の前の生活をまず立て直すことで精いっぱい。一方的に提示される大きな未来像に、自分が置き去りにされたように感じられることもあるでしょう。だからこそ、この事業では、一緒に作業したり、共に笑ったりすることで「今日少し笑えた。」、「久しぶりにすっきりした。」、「懐かしい間柄で、昔の話に花を咲かせた。」といった小さな手応え、今日と明日の地続きにあるような小さな充足感を大切にしています。前向きな気持ちになってはじめて、未来にも眼差しを向けられるのではないでしょうか。

実施にあたっては、現地で日々忙殺されている市町や社会福祉協議会、地域支え合いセンターの方々に過度な負担をかけないように心掛けました。「やりたいけど、たいへん」と思われないように、こちら側でできるだけ段取りし、申し出のハードルを下げ、円滑に活動ができるよう持続可能な仕組みを構築しました。また、市町の求めに応じて、各地域で被災者に寄り添いながらコミュニティ活動を実施している団体がこれからも継続して取り組めるよう支援しました。

2025 年 12 月末までに、延べ約 2,000 回以上のコミュニティ活動を開催し、延べ約 58,000 人以上の参加がありました。毎日どこかで、複数回イベントが行われているようなペースです。参加する人、お世話をする人、双方の笑顔によって、新たなつながりが芽吹き始めています。本冊子のタイトルでもある「石川ひとつなぎ」は、30 日間密着取材をし、映像をつくってくれた金沢美術工芸大学河崎研究室の山西優心さん、東郷荘太郎さんから出たアイデアです。一つひとつの活動を積み重ねることで、「ひと」と「ひと」がつながっていくようすを記録した、能登の人々の物語を感じていただけたら、うれしいです。（2026 年 2 月石川県生活再建支援課地域コミュニティ再建グループへのインタビューより）

interview with 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）　神元幸津江さん

住まいが変わるたびにコミュニティが分断されることは過去の災害でも大きな課題でした。この事業が画期的なのは、各市町の状況に応じてプログラムを検討し、多様なメニューを継続できる仕組みを作った点にあります。被災者が外へ出てきやすい環境を整えることは、不安を安心へと変えていく第一歩です。そしていま、地域では単なる復旧を超えた動きが生まれています。外部の人が関わることで地域の良さを再発見し、新しい出会いが生まれる。そうした広がりが、被災された方が自分の地域を改めて誇らしく思うきっかけになり、災害前よりもさらに豊かな未来を作っていくのだと信じています。

interview with 石川県社会福祉協議会　村田明日香さん

地震直後、私たちが個別訪問で向き合ってきたのは、命を守り、心を守る活動でした。現在は、徐々に生活が落ち着き始め、これからどう暮らしていくかという次の思いに寄り添う段階へと移っています 。本事業を活用したイベントでは、参加者の皆さんが非日常の刺激を楽しみ、明日への元気を得ているようすを実感しています 。また、私たちだけでは出会えなかった多様な団体と手を取り合うことで、支援の幅が大きく広がりました。全国の皆さんが被災者の心に寄り添おうとする想いが、この事業を通じて大きなうねりとなり、温かな支援のツールになっていると感じています。

00 【はじめに】
今日と明日の楽しみを積み重ね、
一歩ふみ出す道の横に、
そっと花を添えるように

02 目次

ひびく

04

06 ミキトバンドのミニ音楽コンサート
08 ＜コラム＞ミキトバンド藤井ひろみさんの、おうちでできるやさしい声の体操
09 風と光のふるさとガーデンライブ・磐持大会
移動式カラオケ

ときめく

10

12 ぶんぶんボウルの漫才ショー
大平まさひこのものまねショー
13 かはづ亭みなみの落語会
月亭方気の落語会
14 マジックショー
15 ＜コラム＞マジシャン RENA さんの、おうちでできる紙袋マジック
16 大阪・関西万博オンラインツアー
17 脳と身体のトレーニングゲーム
健康麻雀サロン

つくる

18

20 下唐川舞台づくりワークショップ
22 穴水町由比ケ丘いこいのば
24 志賀町とぎ菜園収穫祭
25 レザークラフトワークショップ
26 組手付・棚づくりワークショップ
アイシングクッキーづくり
27 ハーバリウムワークショップ
＜コラム＞瀬口美貴さんの、おうちでできる押し花づくり

28 【特集】
土いじりができる場所を作る

なつかしむ

34

36 能登ふるさとバス能登町便
能登サロン in 羽咋
38 能登島野崎町ジオラマワークショップ
40 輪島市朝市通り周辺ジオラマワークショップ
41 ＜コラム＞現地で支援を受け入れている方の声

ぎょうじを楽しむ（行事）

42

44 キッチンカーの派遣
甲地区の納涼祭
こども食堂
45 ふれあい喫茶
内灘町室区の住民ふれ合い会
46 フードアナリスト鈴木亜美による料理教室 in 穴水
47 穴水町商店街復興にぎわいかきまつり 鈴木亜美トークショー
48 石川ひとつなぎフェスタ

52 「石川ひとつなぎ」はどのように生まれたのか

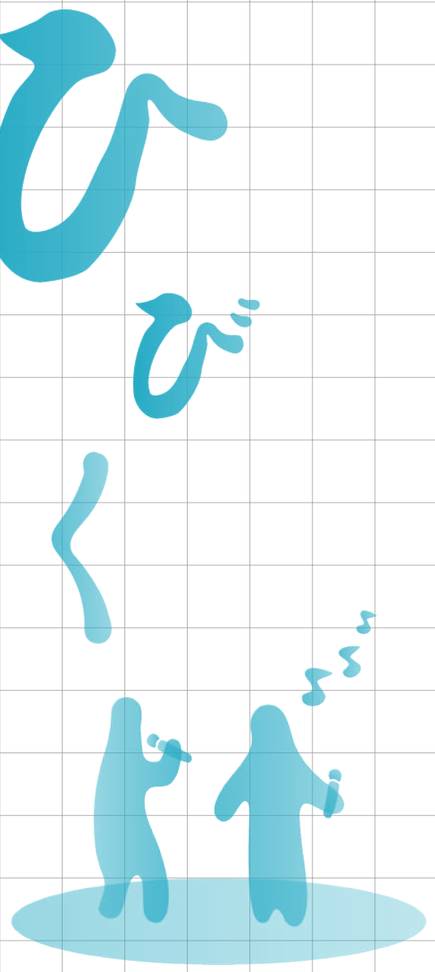
54 各地域でコミュニティ再建事業を担った団体と活動一覧

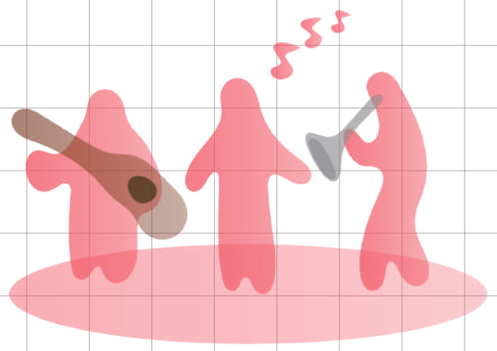
55 石川県能登半島地震地域コミュニティ再建事業に関わった団体等

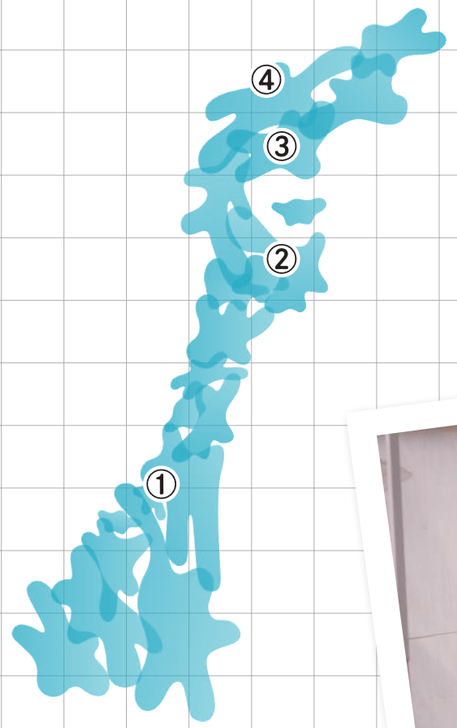
カバーデザイン：山西優心

ひびく

プロの音楽家によるミニコンサートから、集まって皆で歌うイベントやカラオケまで、各地でさまざまな音の交流が生まれています。
一人ひとりの心に温かな光が灯るような、音がひびく時間をいっしょに楽しみませんか。
気軽に取り組める声の体操も紹介しています。ぜひ、心と体を解きほぐしてみてください。







①野々市市 にぎわいの里ののいちカミーノ（p.6-7）

②七尾市 高階地区コミュニティセンター（p.6-7）

③穴水町 下唐川地区 (p.9)

④輪島市 宅田町第１団地 (p.9)

ミキトバンドの

ミニ音楽コンサート

2025.7.23/10.16
野々市市 / 七尾市

皆で楽しめる楽曲で
地域の方々の交流にも花が咲く

白杖のトランペッター藤井幹人さんと、歌とフルートの二刀流で活動する藤井ひろみさんが率いる「ミキトバンド」。幹人さんは、オーケストラ・アンサンブル金沢のトランペット奏者として活躍した後、多発性骨髄腫を発病し、治療と向き合いながら音楽活動を続けられています。2024 年以降は「能登復興支援コンサート」を展開し、クラシックを軸に、ジャズやポップスなど多彩な演奏を行なっています。また、音楽のもつ力で人々の心に寄り添いながら世代や立場を越えて楽しめるステージを大切にされています。

そんなミキトバンドは 40 回ほど県内各地を訪れていて、７月には野々市市のにぎわいの里ののいちカミーノ、10 月には七尾市の高階地区コミュニティセンターへ。「いのちの歌」や「情熱大陸」をはじめ、皆さん聞きなじみのある曲を中心に生演奏と歌を繰り広げました。参加者からは「トークもおもしろくて、会場が一体となった。」、「近くでソプラノの歌声を聞けてよかった。」、「難病を乗り越えて演奏し続ける姿に元気づけられた。」、といった声が。定期的に開催してほしいといったリクエストもありました。

「ミキトバンドにまた来てほしい」という声やスタッフへの感謝の思いも多く寄せられた

interview with ミキトバンド 藤井幹人さん・ひろみさん

幹人「一番最初に伺った場所で、演奏の最後に代表の方が涙ながらに挨拶をしてくださいました。その後また同じところに呼んでいただいたときには、その方は笑顔で明るくなっておられました。」

ひろみ「今日本当に来てよかったわ、というお声をたくさんいただき、うれしく思っています。能登の方たちと出会うことで、私たちも多くの学びをいただいています。皆さん苦しい時なのになぜこんなに優しくて温かいんだろうと思います。ひと時でも日常を離れて、楽しい気持ちや優しい気持ちになってもらいたい。音楽の力で少しでも心の向きを変えられる時間になればと願っています。」

参加者の声

ミキトバンドさんの演奏を聴かせてもらうのは、今日で２回目なんです。初めて参加した時に、ステージのトークで、トランペットを吹いている方が以前はオーケストラ・アンサンブル金沢で活動されていたとお聞きしました。その後、目が悪くなられて、いまはご夫婦でミニコンサートをされているということも知りました。私たちは被災して野々市市に来ているんですけれども、「目が不自由でも頑張っておられる方がいるんだから、私たちも一緒に頑張りたいな。」と思いました。初回もとても感動しましたが、今回もやはりすばらしい歌声で、もうちょっと聴きたかったなというのが正直な思いです。

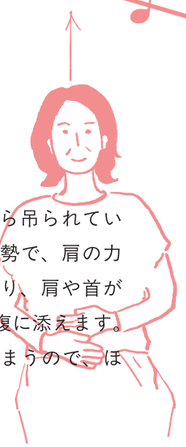
ミキトバンド
藤井ひろみさんの、

おうちでできる
やさしい声の体操

column

ミキトバンド（p.6-7 参照）の藤井ひろみさん曰く、「声を出すことは、心と体の深呼吸。自分のなかの元気とつながること。」です。そこで家でも気軽にできる声の体操を教わりました。声の大きさもかたちも、その日の調子次第で大丈夫。正解を探すのではなく、あなたの声を大切に味わってみてくださいね。

1
姿勢と呼吸を整えましょう



椅子に浅く腰をかけ、背筋は「上から吊られている感覚」で軽く伸ばします。楽な姿勢で、肩の力を抜きましょう。背筋を伸ばすあまり、肩や首が固まらないように注意を。両手はお腹に添えます。呼吸は意識しすぎると浅くなってしまうので、ほどほどに。

2
ろうそくを揺らすイメージで

口をすぼめ、前に息を送ります。息は出すというより「流す」イメージで、くちびるやアゴが固まらないように口をすぼめすぎないように注意します。ろうそくの炎をそっと揺らすように「ふっ」と息を吹き、そのまま「ふぅ～」とささやくように声をのせていきます。

3
鼻に響かせてみる、声あそび

２のイメージで、「ん～」とやさしく声を出します。それができたら、「んま」「んみ」「んむ」「んめ」「んも」の順に声を出します。そのとき、口元と鼻の近くに軽く手を添えてみて。ふっと声が出たあと、鼻に響いている音に気がつくはずです。

Point

大きさや音程は気にせず、声が出たら、それでばっちり。声が出なければ、息だけで大丈夫。のどが苦しいと感じたら、無理せず休みましょう。気持ちよさがなくなったら、その日の体操はおしまいにします。

風と光のふるさと ガーデンライブ・磐持大会

in 下唐川

2025.10.18
穴水町

30 ～ 90kg までの米俵を肩まで担ぎ上げることで力比べする伝統行事

復興支援ソングを皆で歌い、力比べ大会も開催

公費解体した跡地を活用し、下唐川地区の住民が協力し合ってつくった「風と光のふるさと Garden Karaco」の舞台（p.20-21 参照）。この場を活用した交流イベントが開催されました。ガーデンライブでは、名古屋の音楽家や金沢の大学生とのつながりから生まれた地区の復興支援ソング演奏や、地元バンドや胡弓演奏家などのステージを楽しみました。また、地震によって中止されていた地区伝統の力比べ「磐持大会」も再開。日本福祉大や金沢大の学生が住民から指導を受けて米俵を編んだりと、イベントの企画運営に協力。同じ伝統をもつかほく市の住民と、編み方の伝授を巡った交流も生まれました。

移動式カラオケ

2025.8.27
輪島市

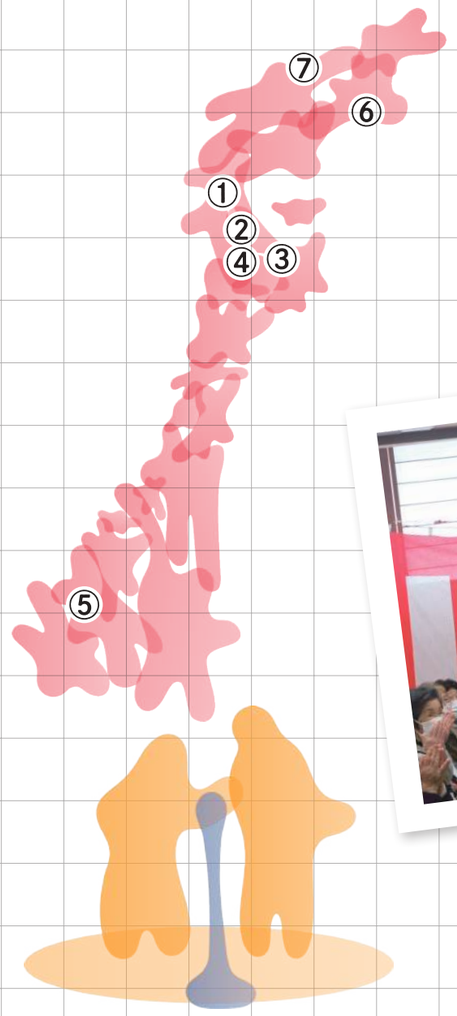
マイク片手に笑顔を交わす思い思いの楽しいひととき

集会所や公民館などに集まって移動式カラオケを楽しむイベントも、輪島市をはじめ、七尾市、志賀町、珠洲市など各所で開催されています。なかでも、輪島市の宅田町第１団地では月１～２回のペースで行われ、歌うことが元より好きな方からこれまであまり縁がなかった方まで、皆がマイクを回し合う和やかな時間が流れています。曲のレパートリーが豊富で、音質が良いことも好評です。「地震以来こんなに歌ったことがなかったので、スッキリした 。」、「仮設住宅では歌う機会がないので、とてもうれしい。」、「たくさんの顔なじみに会える。」などといった声も寄せられています。

数多くの曲目から、なつかしい歌を気持ちよく響かせる参加者の方々

ときめく

お腹の底から笑ったり、プロの鮮やかなテクニックに驚いたり。
最新の技術を使って、ここではない遠く離れた世界へと旅に出たり。
漫才や落語、マジックといった伝統的な演芸から、大阪・関西万博オンラインツアー、ゲーム感覚でできる脳と身体のトレーニング、さらには健康麻雀まで。
心に刺激と活力をもたらす多彩な体験が用意されています。
日常からひと時離れて、胸をときめかせてみませんか。
皆の笑顔と好奇心が交差する時間が待っています。



①志賀町 仏木集会所（p.12）
②七尾市 中島地区コミュニティーセンター熊木分館（p.12.13）
③七尾市 高階地区コミュニティセンター（p.13）
④七尾市 中島地区コミュニティセンター豊川分館（p.14）
⑤小松市 第一地区コミュニティセンター（p.16）
⑥能登町 老人憩いの家たなぎ荘（p.17）
⑦輪島市 南志見公民館（p.17）

ぶんぶんボウルの

漫才ショー

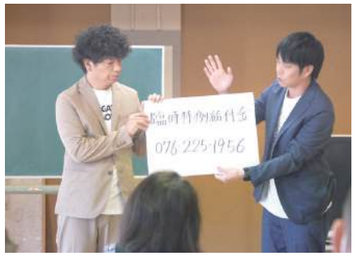
2025.10.15
志賀町

幅広い笑いのなかに お役立ち情報や学びもあり

石川県白山市出身のお笑い芸人「ぶんぶんボウル」のまーしさんととよしげさんは県内各地へ30回ほど笑いを届けています。吉本興業の「あなたの街に住みますプロジェクト」で初代石川県担当に選ばれてから能登へ通い、若いころから地域でかわいがってもらってきたそう。「ネタを見ているあいだは、いろんなことを忘れて楽しんでもらいたいって気持ちでやってるんですけど、とにかく皆さん明るくて。逆にこっちがパワーを毎回もらってます。」とお二人。

お笑いのなかでは、臨時特例給付金や特殊詐欺対策などのテーマも取り上げられ、身近な注意事項をわかりやすく学べる工夫は参加者にも好評です。

ふたりが登場すると「白山市！」「絵が得意なまーし！」など声が飛び交う。笑いがたえない30分のステージ



かはづ亭みなみの

落語会

2025.10.11
七尾市

落語初心者や子どもも 皆で楽しむにぎやかなひと時

現在は、俳優活動と並行して、定期的に落語会を開催しているかはづ亭みなみさん。石川では約20回にわたり、華やかながらも朗らかな語り口の落語で、多くの会場を明るい空気へと導いています。

演目選びにもひと工夫あり、「子は鎹（かすがい）」という演目は、母親と息子が出てくるため、女性の参加者に母親の気持ちを共感してもらえるのではないかと選んだそうです。「動物園」という演目は時代背景を現代風に、舞台も石川県にアレンジし、初めて落語を観る方や子どもにも親しみやすいものに。状況を思い浮かべやすいかはづ亭さんの表情や表現に、感動して涙が出るほどだったという参加者の声もありました。

にぎやかな会場で、笑いが笑いを呼び、和やかな雰囲気に。地域に寄り添った運営も好評

大平まさひこの

ものまねショー

2025.10.11
七尾市

ものまねや漫談、懐かしい 昭和の歌謡曲に大笑い

2年間で約30回にわたり、各地域で芸能人のものまねショーを繰り広げてきた大平まさひこさん。「金沢までは出られないけど、すぐそこまで来てもらえるんだったら見に行けるとか、震災以降初めて笑ったといった声を聞かせてもらっています。イベントをきっかけに公民館などに行くことで、近所の人と話せたりと、小さいけれどもいいコミュニティができ始めているのかなと感じています。珠洲の仮設住宅でお客さんが8人だったことがあって。お客さんと目が合うと、自分自身が照れてしまうかなと思ったのですが、皆さん人数に関わらず遠慮せずに楽しんでくださって、気づいたら45分が過ぎていました。」

五木ひろしさんや谷村新司さん、和田アキ子さんなどのものまねで、華やかな衣装でも会場を盛り上げる大平さん

月亭方気の

落語会

2025.10.16
七尾市

地域に根ざした笑いで 想像力が広がる温かな時間

石川県内すべての市町へ直接落語を届ける活動を続ける月亭方気さん。金沢の銭湯文化に精通した専門家としても認定されています。2018年からは吉本興業の「あなたの街に住みますプロジェクト」で石川県を担当。

「地震直後の1月末ごろから志賀町など避難所を回り、落語をボランティアで行なっていたんです。当時と比べると、皆さんの顔がだいぶ明るくなり、よく笑ってくださるようになりました。石川県民はシャイな方が多いのですが、地域差があって、能登の方は、ワァーっと笑ってくれる。優しいんですよ。僕の出身地が七尾だからかもしれないけれど、能登は高座をやりやすいんです。」

地元愛を軸に、20回ほど笑いを届けてきた月亭さん。参加者から方言を交えた話に親近感を感じたという声も

マジックショー

2025.11.11
七尾市

ステージに魅了されたり
マジックに皆で参加したり

いしかわ観光特使でもあるマジシャンのRENAさんは30回ほど県内各地を訪問。音楽に合わせてハンカチがさまざまに変化したり、真っ白な紙がお金に変化したりと、手先を使った繊細なものからダンスと融合したものまで幅広い演技で観客を魅了しました。参加者からは「華やかな衣装や演出で、明るい気持ちになれた。」、「嫌なことや不安が吹き飛ぶような感覚だった。」という声も。圧巻のステージを鑑賞するだけではなく、皆で手と指を使って、不思議な世界を体験するひと時もあり「体を伸ばす運動があって、すっきりした。」、「明るく楽しい時間を過ごすことができて癒やされた。」といった感想も寄せられました。

マジシャンの実演を目の前で見られる貴重な機会。RENAさんのしなやかで美しい手先の技術やスピード感に、思わず引き込まれる参加者の方々

左下）会場全員が参加するマジックも。体を動かすことが、明日への活力に

右下）トランプを使って、参加者が協力し、数字を予言するマジック

マジシャン
RENAさんの、

おうちでできる

紙袋マジック

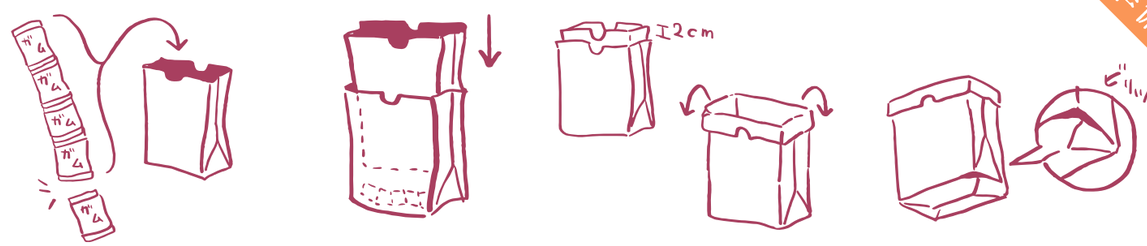
column

マジシャンのRENAさん（左ページ掲載）から、紙袋２枚と吊り下げ菓子１セットあればできる初心者向けのマジックを教えてもらいました。とはいえ、マジックは、タネを手順通りに行なうだけでは、不思議さが伝わらないもの。演じる時はマジシャンに変身したつもりで、表情や目線、身振りで雰囲気をつくり、にっこり笑顔で。ゆっくり落ち着いて、自分自身も楽しみながらやってみてくださいね。

準備するもの

- お菓子　１セット（ミシン目などで連結しているもの）
- 紙袋　同じ種類を２枚（大きめで透けない素材）

準備



1. 連結したお菓子のミシン目を使い、ひとつだけバラの状態にしておきます。残りの連結したお菓子は、１枚目の紙袋に入れます。
2. １枚目のお菓子を入れた紙袋に、２枚目の紙袋を入れます。
3. ２枚目の紙袋の上部を１枚目から2cmほどはみ出させ、はみ出した部分を外側に折り返します。
4. １枚目の紙袋を、底が見えるようにひっくり返し、底の角に切り込みを入れておきます。マジックでは、この切り込みからお菓子を引き出します。

本番

1. 紙袋の中を見せ、空であることを確認してもらいます。そのあと、袋にお菓子をひとつ（ばらして手元の残したもの）入れます。
2. 袋をつぶします。
3. 袋におまじないをかけます。
4. 袋をつぶしながら逆さにして、あらかじめ底に入れておいた切り込みを指でつまみ、少しずつ破っていきます。
5. 破った箇所から、連結しているお菓子の先端を持ち、少しずつ引き出してうまく引き出せたら、大成功！

大阪・関西万博オンラインツアー

2025.9.18
小松市

迫力ある映像、リアルなレポートで旅気分を堪能

2025年４月に開幕し、世界中から注目を集めた「大阪・関西万博」。その熱気を味わえるようにと、小松市の第一地区コミュニティセンターで、現地からのオンライン生中継イベントが開催されました。画面越しに広がるのは、ニュースの映像とはひと味違う、リアルな会場の空気感。個性豊かな海外パビリオンの外観を巡り、最後には話題の「大屋根リング」の上から会場全体を見渡しました。レポーターから出題されたクイズも楽しむことができ、参加者からは、自分のまちと万博会場がつながっている気がしてうれしいといった声も。会場には1970年の大阪万博を経験した世代の方も多く、当時の思い出話に花が咲きました。

ガイドの説明がわかりやすく、現地にいる気分で万博の雰囲気を味わうことができた

2025.9.8
能登町

脳と身体のトレーニングゲーム

無理なく体を動かして記憶力や姿勢を確認できる

この日「老人憩いの家 たなぎ荘」で参加者の方々が体験したのは、センサーの前に立つと自分の体がコントローラーになり、楽しみながら体を動かせるトレーニングゲームです。座りながらでも参加でき、理学療法士などの専門家が監修しているのでリハビリになる動作ができます。初めての体験も、司会者の指示に合わせて、体や脳を使ったり、声を出したり。姿勢や体の状態、記憶力を確認できるいい機会になり、「日常生活で体を動かす機会が少ないので、参加してよかった。」、「皆で和気あいあいと楽しく活動でき、ストレス発散になった。」といった声もありました。

「負担にならずに全身を動かせた」「初めての体験に興味が湧いた」という感想も

2025.8.5
輪島市

健康麻雀サロン

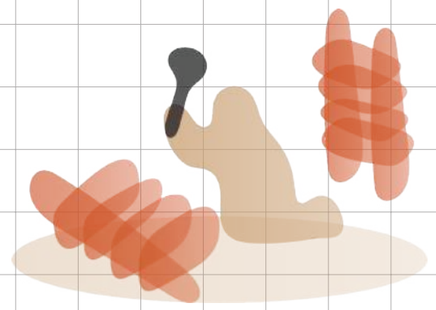
対局中も待ち時間も脳を動かし、会話を楽しむ

指先を使い、状況を判断して計算するため、脳の活性化に役立つといわれる健康麻雀。和気あいあいとした雰囲気で、初心者も気負わず参加できます。卓を囲むことで自然と会話が生まれるので、いつものメンバーはもちろん新しく会う方同士でも交流しやすく、男性にも人気のプログラムです。電動式の台は初心者でも使いやすく、「少しずつルールが分かってきたり覚えられたりするのがうれしい。」という参加者も。「点数に関係なく楽しめた。」、「集中しているあいだは辛いことをちょっと忘れて没頭できるし、頭を使うから帰宅してからぐっすり眠れる。」という声も聞かれました。

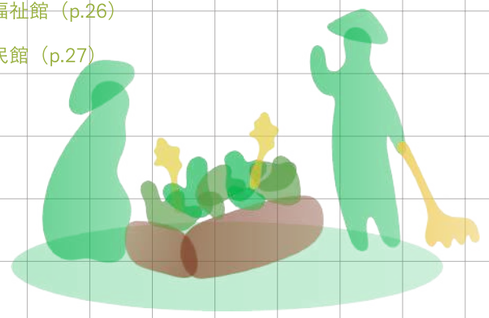
「スタッフが親切で、参加者も温かく優しい方ばかりだった」という感想も寄せられた

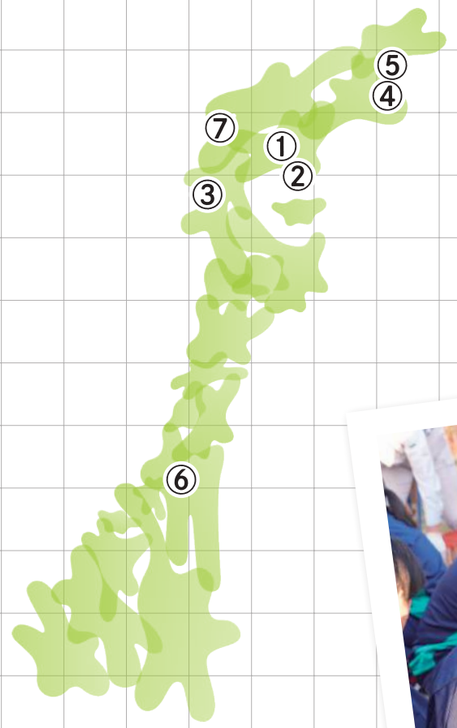
つくる

皆が集まりやすくなる場を目指して、舞台や菜園を協力し合って完成させたり、収穫した野菜でバーベキューを楽しんだり、お祭りを企画したり。
普段使いにうれしい雑貨をレザークラフトで仕立てたり、棚を組み上げたり。
アイシングクッキーやハーバリウムなど、生活に彩りを添え、大人も子どもも気軽に楽しめるものづくりを体験したり。
こうした創作を通じた交流の輪が、広がりつつあります。
目の前の材料が少しずつ形を変えていき、できあがったときには、その喜びを分かち合う。
思い出を自分たちの手で生み出していく、心地よいひとときが流れています。



①穴水町 下唐川地区（p.20-21）
②穴水町 由比ケ丘団地／石川県立穴水高等学校（p.22-23）
③志賀町 とぎ第８団地（p.24）
④能登町 松波公民館（p.25）
⑤能登町 恋路集会所（p.26）
⑥金沢市 松ヶ枝福祉館（p.26）
⑦輪島市 剱地公民館（p.27）





2025.8.1
穴水町

下唐川舞台づくりワークショップ

集落の皆で作り上げた場所で交流が続いていく

40 軒中 30 軒の家が公費解体となった石川県穴水町下唐川地区。その住民有志 50 名ほどが立ち上げた団体「支援団体プロジェクト K」は、外部からの支援や関わりを積極的に受け入れながら、地区のエネルギーとなる活動を次々に手がけています。

まず、公費解体で更地となった跡地を利用し、山からの湧き水で常に足場が悪い状態だったところを埋め立てて整地し、地区住民が集まったり、音楽イベントなどを開いたりできる場所を作ることに。東京大学・千葉学建築計画事務所によるデザイン監修の協力を得ながら、家屋の解体で出た立派な柱材などの木材を使って、住民同士が得意なことで協力し合い、自力で舞台やベンチを作成しました。ベンチづくりの参加者からは、「地震があったことをきちんと残したい。そのために古材のベンチは必要」という声も。完成したこの場所は下唐川地区の愛称「からこ」から「光と風のふるさと Garden Karaco」と名付けられました。

公費解体でできた空き地が、皆で集まれる交流の場に。地区伝統の磐持大会も開催された

住民と復興支援者で作成した曲「光と風のふるさと」の名がガーデンにも付けられた

加代等さん

参加者の声

下唐川地区の区長を務め、地震の後は地区のかわら版を精力的に発行する加代等（かだいひとし）さん。「ガーデンを作る過程で、古材を利用したベンチ作りから始まりましたが、あれも大工作業が得意な人がいたからできたことです。舞台もつくることができ、コンサートを開催できたり、伝統行事が再開できたり、想像以上の展開をみせています。この場所はみんなが朝から晩まで力を合わせて作った結晶なので大切にしていきたいし、復興のシンボルとして光が灯っていく場所になってくれたらいいなと思っています。そして、たくさんの人に来ていただきたいです。」

穴水町由比ケ丘いこいのば

2025.11.12
穴水町

語らい合える菜園を目指して高校生もいっしょに場を作る

穴水町由比ケ丘団地は、元は陸上競技場だったところで、この町で一番大きな仮設住宅団地です。川島の「いこいのば」(p.28-33 参照) ができ、同様にここにお住まいの方々にも土いじりができる環境をつくることができないか。ここを拠点に支援を続けている認定ＮＰＯ法人レスキューストックヤードや穴水町社会福祉協議会の働きかけで、隣接する穴水高校の旧テニスコートで計画が進んでいます。

まずは、中心に休憩したり腰を下ろして語らえる場所をつくるべく、ベンチ製作のワークショップを開催。東京大学・千葉学建築計画事務所の千葉学さんによるデザインで、板材に穴を開けて縦に重ね合わせ、ボルトで束ねて締め付けるだけの単純なつくりでありながら、農具もひっかけたりテントも張れる立体的かつ頑丈なベンチが組みあがりました。製作には穴水高校の生徒も加わり、皆でわいわい作業を進めて完成しました。

皆で防腐剤を塗布した木材をつなぎあわせていく

一緒にひと休みしたり、日除けになったり、道具を収納したり。さまざまな機能をもったベンチが完成した

仮設住宅の入居者の方々との交流などを心待ちにしていた高校生たち

interview with 東京大学・千葉学建築計画事務所　千葉学さん

石川県庁でコミュニティ再建事業を率いる嘉門佳顕さんから、仮設住宅団地にお住まいの方から「畑いじりをしたい」という声がたいへん多いと伺い、とても共感したんです。僕自身も土いじりをしたり、植物を育てたりすることは、生きていく上での活力になっていますから。であれば、せっかくなので、「人が集まって休憩できる場所も一緒に作りましょう」とベンチづくりを提案し、最初は川島で住宅からでた廃材を再利用したデザインを考えました。由比ケ丘においてはもう廃材が手に入りませんでしたが、被災地支援のために提供いただいた杉の板材があると伺い、それを活用することにしました。どちらも、単純な作業の積み重ねで、みんなで協力しながらつくることができるデザインになっています。途中苦労もありましたが、住民の方々も高校生も熱心に取り組んでくださって、無事に完成させることができました。川島や由比ケ丘におけるこうした取組みがさらなる展開をみせて、少しでも復興の力になればと願っています。

志賀町とぎ菜園収穫祭

2025.8.26
志賀町

菜園作りが育んできた日々の交流、お楽しみ

志賀町のとぎ第８団地では、菜園作りを通じて温かな交流が広がっています。町内で復興支援を続ける NPO 法人 LOVE EAST が住民と協力し合って準備が進められました。まっさらな状態から菜園を作ったり、日々水をやったり、カラスから野菜を守ったり、一つひとつの協働作業が住民同士が打ち解け合うきっかけに。

完成した約 70 平方メートルの菜園では、ナスやトマト、オクラなどさまざま野菜が栽培され、25 年８月には収穫祭「夏夜祭（なつやさい）」が開催されました。当日は、住民や NPO スタッフなどが参加し、自分たちで育てた新鮮な夏野菜を囲んでバーベキューやカラオケを楽しみました。

皆で育てた野菜を、収穫祭で堪能

参加者の声

左） 最初はボランティアの人たちと木の枠を作ることから始めました。何もなかったところに、12、13 人ほどが中心になって、皆で庭を作って、5 月には苗を植えて。土を運ぶのは大変だったし、雨が降らなかったから水やりも苦労したけれど、貯水タンクを作ってもらって。

右） 夕方になると、ここに集まって、水やりついでに団らんをして。毎日必ず集まるいいきっかけができました。皆で分担したからたくさんの野菜ができて、日に日に変化も感じられるし、ボランティアの方ともつながって楽しくなっていきました。たまたまこの団地に住むことになり、いいこともあったといまでは思っています。

レザークラフトワークショップ

2025.9.9
能登町

カラフルでかわいい自分だけの作品が完成

松波公民館で開催されたのは、本革を使って小物を作るワークショップ。先生に教わりながら、キーホルダーやコインケースなど、刻印や縫製で自分好みに仕上げていきます。レザークラフトは初めてという方がほとんどでしたが、皆さん作ることに夢中になりながら、おしゃべりも盛り上がる楽しいひと時。初心者も、手が不自由な方も、サポートをもらいながら、世界に一つだけのオリジナルを完成させていきました。「ストラップやトレーなど、実用的なものが作れて助かった。」、「みんなが楽しそうでうれしい」、「いろいろなデザインを考えることができて、楽しかった。」などという感想も寄せられました。

参加者同士声をかけながら、普段はしないことに向き合う時間が癒やしに

先生の指導やサポートが丁寧なので、初めての方からも「簡単にできた」という声が

濱都代子さん

参加者の声

地震の後、少しのあいだ、富来の中学校に避難しましたが、人がたくさんいたので「皆いっしょや」と思えて心強かったです。その後、金沢の息子のところにしばらくいましたが、地元がよくてね。戻ってきてから家を少しずつ片付けてきたけど、周りの家がなくなっていくのはやっぱりむなしいです。いまも重機が通るたびに地面が揺れて、地震かとドキッとするし、心に重たいものが詰まったまま。

でもワークショップに来て皆さんの顔を見て、お話すると気持ちが盛り上がる。一瞬でも楽しい時間を過ごせて、新しい交流ができて情報交換できるこういう場が、いまは本当にありがたいね。

組手什・棚づくりワークショップ

2025.10.17
能登町

木の香りといい音に包まれて自分だけの棚作り

組手什（くでじゅう）とは、日本の伝統的な木工技術を活かし、釘やネジを一切使わずにはめ込むだけで組み立てられる木製パーツのことです。短い時間でシンプルに家具が作れるこの道具を使って、恋路集会所で棚作りのワークショップが開催されました。

参加者は自宅で使うための棚を一人一台ずつ製作。会場にはトントンと木を叩く心地よい音が響き、爽やかな木の香りが広がります。腕力に自信のない方でも簡単に扱える工程ですが、日曜大工に関心のある男性の参加者の心もつかみ、「男性がイキイキと作業する姿が見られてよかった。」という感想も寄せられました。

ストレス発散になった、汗をかいて気持ちよかったという声も

ハーバリウムワークショップ

2025.9.19
輪島市

きれいな色合いの花で日常を彩るアイテム作り

輪島市の鈴地公民館で開催されたのは、ハーバリウムのワークショップ。専用のボトルに色とりどりのドライフラワーなどを入れてオイルで満たし、インテリア作品を作っていくという体験です。講師をつとめた瀬口美貴さんは県内各地で約 50 回にわたり、さまざまなワークショップを実施しています。参加者からは「簡単に作れて驚いた。」、「良い頭の体操になった。」といった感想が寄せられました。

interview with 瀬口美貴さん

地震から時間が経ち、ワークショップに来てくださる皆さんは、少しずつ笑顔を取り戻し、前向きな気持ちになられているように感じます。新しい趣味と出会うきっかけになったり、自宅でも活かしてみようと日々の生活に変化が生まれたり。無機質な感じがする日常にお花の色が加わると、気持ちが明るくなるというお声もいただきます 。参加してくださる方の日々の癒やしにつながるようなお手伝いを続けていきたいと思っています。

アイシングクッキーづくり

2025.10.5
金沢市

親子連れでも楽しみやすく季節を感じる手づくりを

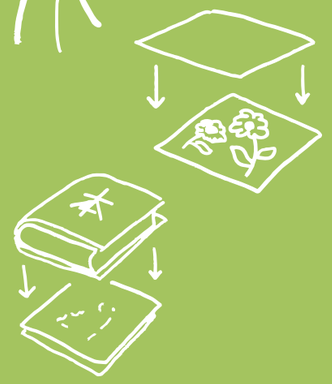
金沢市の松ヶ枝福祉館で開催された「福祉のつどい」にて、アイシングクッキー作りを楽しめるワークショップが開催されました。会場には子どもから高齢の方まで幅広い世代が集まり、朝から夕方まで多くの参加者で賑わいました。ワークショップでは手軽に仕上げることも、自分なりのアレンジを加えることもでき、それぞれのオリジナルハロウィンクッキーが完成しました。そんなお楽しみの前後には、隣接する松ヶ枝緑地に設けられた被災者生活再建相談ブースへ立ち寄る方もいらっしゃいました。

瀬口美貴さんの、

おうちでできる押し花づくり

1 まずは、お散歩がてら、押し花にしたいお花や葉を探してみてください。それから、キッチンペーパーを広げ、その上にお花や葉っぱを重ならないように並べます。 その上からさらにキッチンペーパーを重ねて、優しく包み込みます。

2 本など重みのあるものを上にのせ、１週間ほど置きます。水分がしっかり抜けて、カラカラの状態になれば完成です。ハガキなどに貼って、ご友人にプレゼントするのもいいですね。



Point

シロツメクサ、タンポポ、オオイヌノフグリなど花びらが薄いものや、クローバーなどの葉っぱがおすすめ。

column

散歩道で見つけた花や葉を、押し花にする方法をSalonM & M の瀬口美貴さんに教わりました。特別な道具がなくても、身近なものでお手軽に楽しめます。

特集

土いじりができる場所を作る

2024 秋～ 2025 秋
穴水町

土に触れながら、ともに築く新たな日常の「いこいのば」

住み慣れた自宅を離れ、仮設住宅に移り住んだ方々の、「土に触れて暮らしたい。」という思いがあることを受け、「穴水町川島いこいのば」のプロジェクトははじまりました。自分たちで土いじりをする環境をつくろう。候補地として近くの公費解体の跡地をみつけ、所有者である町の了解も得て計画は進められました。

穴水町社会福祉協議会の方々と穴水町川島第２団地の住民たちが中心となって、草を刈り、畝をつくるだけではなく、休憩場所となるベンチも自らの手でつくりました。

ベンチや休憩スペースのデザインを手がけたのは、東京大学・千葉学建築計画事務所の千葉学さん。公費解体から出た古材をレスキューされている江﨑青さんの工房を訪れ、解体された住宅から出た廃材の美しさに心打たれた千葉さんは、それらの貴重な資材を再利用したいと考え、住宅を支えていた古材柱を校倉（あぜくら）づくりのように組みあげていく「キリコベンチ」と、細い材を三角形に並べてつくる「ぼらまちベンチ」の２種類をデザインしました。どちらも「切る」、「穴をあける」、「重ねる」、「塗る」といった単純な作業で住民たちが協力しあって組み立てることができるよう工夫されています。

時間をかけて、一歩一歩住民の手でつくられた「いこいのば」。いまでは日々の作業を通して団らんをしたり、収穫した野菜で料理を楽しんだりと、この場自体も住民の日常の一部にまで育ちました。

2024 09/25 2024 10/14

9/25　一般社団法人のと復耕ラボ＋古材 create 青組の江﨑青さんを千葉学建築計画事務所の方々と訪問し、公費解体の現場から救出された古材の魅力に圧倒され、これらを再利用したベンチにしようと方針が決まりました。
10/14　東京の千葉学建築計画事務所を訪問。いこいのばの休憩スペースに設置する予定の屋根付きベンチの模型の確認や打ち合わせが行われ、設計の細かな点を吟味しました。

2024 11/02

東京・代官山で開催されたイベント「猿楽祭」で、実物大の試作品をつくってみるワークショップが開催されました。穴水町社会福祉協議会の職員も参加し、来場者とともに実際のベンチを組み立てる一連の作業を体験することで、現地での開催に向けて準備が進みました。

2024 11/06

仮設団地の集会所で住民説明会が開かれました。入居者のほか９名が参加し、計画が説明され、菜園作りを行うメンバーを募集。50 区画の畝のうち 17 区画に予約が入りました。

2024 11/27

およそ 320 平米のスペースで、本格的なワークショップがスタートしました。草刈りのあと、古材の柱材を再利用してみんなで土を入れるための木枠をつくり、まずは３区画の畑ができました。
雨が降りしきる日でしたが、千葉学さんや江﨑青さんのアドバイスのもと、現地でベンチを皆で作り上げました。

2024 12/18 2024 12/20

12/18　引き続き木枠作りが行われました。
12/20　ついに木枠の中へ土を入れる作業が実施されました。

2025 01/22

運営に向けて、参加者で再度話し合いました。どの区画で何を植えるか、ベンチの名称は何がいいか、意見が交わされ、最終的に「キリコベンチ」と「ぼらまちベンチ」と名付けられました。

2025 01/28

穴水中学校１年生との交流ワークショップが実現しました。かつて生徒たちが仮設住宅の表札作りを手伝った縁から始まったこの交流では、中学生と住民がいっしょになって追加の木枠づくりや割当られた個々の場所を示す看板作りを行いました。最後には「ふるさと」の合唱のプレゼントもあり、心を通わせました。

2025 02/28

専門家を講師に迎えた家庭菜園講座が開かれ、北陸の気候に合わせた野菜作りの基礎を学びました。参加者からは、植えたい野菜の種類やカラスへの対策など、具体的な声が多数上がり、盛り上がりました。講師からは、畑の１区画には１種類の野菜を植え、できた野菜を住民同士で分け合うことが親睦にもつながるのでは、とのアドバイスがありました。

2025 03/11

地面のぬかるみに悩まされていたため、公費解体された住宅から出た瓦をチップにして地面に敷き詰める作業が行われ、新しい木枠も作られました。

2025 03/19

いこいのばの看板と、農具を収納するための物置を皆で製作し、住民が日常的に集まれる場所が整いました。ワークショップの参加者からは、「ゆくゆくは隣の空き地も町内会で借りて、畑で採れた野菜の収穫祭をしたり、地域の集まりを開催したい。」という声も。

2025 10/15

2025 年 10 月 15 日にいこいのばの一周年を節目に、振り返り会と収穫した野菜を使ったカレーの昼食会が行われました。

interview with
穴水町社会福祉協議会　橋本みすずさん

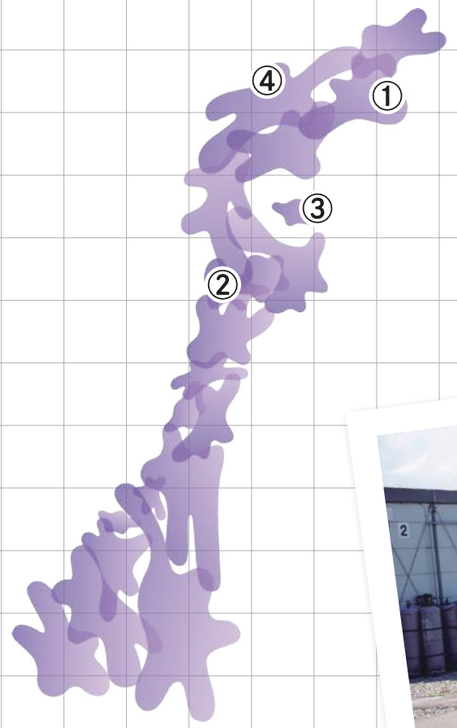
印象的だったのは、町内の中学１年生全員が参加した共同作業の日です。畑の枠組みや表札を作り、最後には生徒たちが被災された方々へ向けて「ふるさと」を合唱してくれました。その場にいた全員が涙を流したあの光景は、抱えきれない不安の中にいた皆さんの心が、若い力で解き放たれた瞬間だったと感じています。
この場はお互いを見守る仕組みとしても機能しています。畑全体の草刈りをこまめに行ってくれていた方の姿が見えなくなったことがあり、そのことに気づいた住民の方から当方に連絡が入ったんです。遠方の娘さんに連絡を取ったところ、一時的に別の場所に身を寄せていることが分かり、住民全員で胸をなでおろしました。
集いの形にも変化がありました。女性は気軽に集まれますが、男性はお誘いしてもなかなか参加が難しいものです。しかし、作業をして収穫するという目的がある活動には、男性も多く参加してくださいます。畑作業をしている住民ばかりでなく、誰もがベンチでくつろげることも、孤立防止の役割を果たしています。また、学生たちから知恵を尊敬されることで、高齢者の方々が自己肯定感を高め、生き生きとしていく変化を感じました。

参加者の声

鹿野さん「この団地に来て１年半ほど経ち、皆仲良くなってきて。本当に良い人ばかりで和気あいあいとしていて、涙が出ます。畑ができてからは、収穫に皆で畑へ行って、『これは何々ね。』と言い合ったり、ボランティアの方が声をかけてくれたり。」 **志賀さん**「私は朝のウォーキングで広場からぐるっと 30 分ほど歩くときに、畑のようすを見たりしています。これからは普段から食べるものなど、旬の野菜を植えていきたいです。冬の野菜は雪の下で甘くなるしね。」 **前山さん**「収穫したものをその日の夕食に出したりするのも楽しいです。お花が咲いているのも、いい感じですね。」　（写真右から）鹿野さん、志賀さん、前山さん

なつかしむ

地震によって住まう場所が離れても、変わらず心にのこる故郷への思い。
時にはバスに揺られて地元の今を確かめに行き、時には集まって慣れ親しんだ方言で語り合う。心安らぐ環境のなか、専門家とともにこれからの歩みを分かち合う時間もありました。
なつかしむ気持ちが、離れた場所にいる皆さんの心も、ふたたび結びつけています。

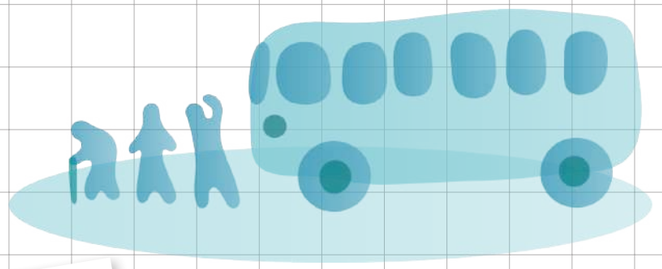


①能登町 能登町役場内浦総合支所（p.36-37）

②羽咋市 宇宙科学博物館 コスモアイル羽咋（p.36-37）

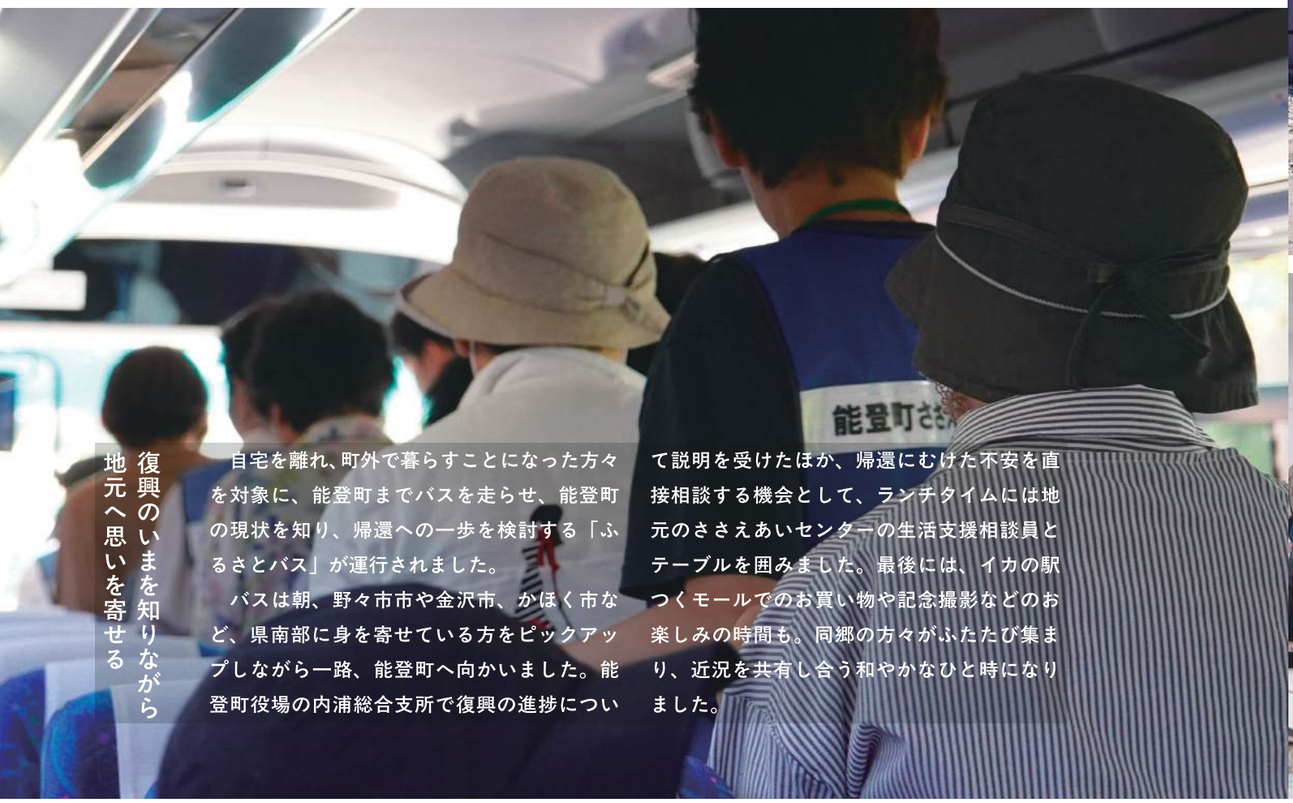
③七尾市 野崎多目的集会所（p.38-39）

④輪島市 ワイプラザ輪島（p.40）



能登ふるさとバス能登町便

2025.9.2
能登町



復興のいまを知りながら地元へ思いを寄せる

自宅を離れ、町外で暮らすことになった方々を対象に、能登町までバスを走らせ、能登町の現状を知り、帰還への一歩を検討する「ふるさとバス」が運行されました。

バスは朝、野々市市や金沢市、かほく市など、県南部に身を寄せている方をピックアップしながら一路、能登町へ向かいました。能登町役場の内浦総合支所で復興の進捗について説明を受けたほか、帰還にむけた不安を直接相談する機会として、ランチタイムには地元のささえあいセンターの生活支援相談員とテーブルを囲みました。最後には、イカの駅つくモールでのお買い物や記念撮影などのお楽しみの時間も。同郷の方々がふたたび集まり、近況を共有し合う和やかなひと時になりました。

復興状況の説明を受けたり、町内を巡りお土産を購入したりする時間も

途中で体操をしたり、ランチをしたりするなかで、同郷の方同士での会話も生まれる

弘崎弘美さん

参加者の声

こういう催しがあることも知らなかったのですが、社会福祉協議会の方からお誘いいただきました。もともと住んでいた旧内浦の方ともお目にかかれて、本当に良かったなと思っています。被災された皆さんとお目にかかって「自分だけじゃないんだな」ということもわかりました。

地元には仕事の関係もあってときどき戻ってはいるのですが、白丸公民館のほうまでは拝見することがなくて。ずいぶん解体が進んで、街並みが変わってしまったなと、ちょっとつらい思いをしました。皆でバスに乗って、自分だけではなかなか行けないところへ連れていっていただけることは、ありがたいことだなと思っています。

能登サロン in 羽咋

2025.8.9
羽咋市

弁護士や住宅金融支援機構などの専門家や県職員に、具体的な相談ができる

近い境遇の方同士で打ち明けにくい悩みを共有できる機会に

身の上を共有し合ったり専門家に相談したり

羽咋市、宝達志水町、中能登町で避難生活を送る方々を対象に、お金や住まい、就職や法律のことなどを専門家に直接相談できるサロンが開催されました。

会場のコスモアイル羽咋には、ものづくりワークショップや子ども向け縁日も用意され、親子連れでも立ち寄りやすい温かな雰囲気に。同郷の方や地元の支え合いセンター相談員との交流スペースも用意され、地元の言葉で気兼ねなく語り合える場にもなりました。参加した方々からは「久しぶりに他の人と会話ができて楽しかった。」、「同じように被災した人と話せてよかった。」といった声も聞かれました。

参加者の声

何年かぶりに地元の社会福祉協議会のスタッフさんと今日お会いできて、とってもうれしかったです。こういった「寄り合い」を、羽咋でこれからも企画してほしいなとかねがね思っていました。県の広報さんから聞いて、金沢まで２、３回出かけて、NPO 法人が主催する「笑語（わらかた）ひろば」などのイベントに参加したとき、輪島や珠洲の方がたくさんお出でになっていて、お話をしたり、料理を作ったりしたことが印象に残っていて。主人が元気なら二人で参加できるのですが、遠いところは行きにくくて。近場でおなじ境遇の方と体験したことを話して笑顔になれたら、心が安らぐと思うんです。

野崎集会所にて。結束力が強く、地震後数時間で地域住民の安否を確認できたそう

一人ひとりの記憶をつなぎ合わせて、模型の約300にのぼる建物に名前がつき、町が蘇っていく

interview with　東北大学　井澤拓巳さん

東京の住宅街で育ち、隣に住んでいる人の名前を知らない環境で過ごしてきた僕は、野崎町の方々の近い関係や協力体制に驚きました。当初、僕たちはワークショップの段取りを考えて準備をしていましたが、この1、2年ほど野崎町へ通い、いざ模型が形になっていく過程で、皆さんの自発的なエネルギーが僕たちの想定を上回っていきました。こうした活動を通じて感じたのは、町の魅力は、そこに積み重なってきた人々の暮らしにあり、皆さんの記憶が町の持続性につながるということです。ただ街並みを捉えるだけでなく、そこに流れる歴史や思いに触れることを大切にしたいと思っています。

所有者の名前のほか、「虫送り」など、地域の行事や暮らしを感じられるプレートも

記憶をすくい上げて地域を再びつなぎ合わせる

野崎町の方々が避難生活から日常へと戻り始めるなか、東北大学の佃悠准教授による提案でワークショップが始まりました。地震などによって物理的な街並みが失われたとき、代わりに新しい建物を建てるだけでは、人々の心の拠りどころを取り戻すことはむずかしいものです。そこで、失われた風景をジオラマとして復元するプロセスを通じ、住民が自らの記憶を形にし、語り合う場を作る試みが始まりました。当初は昔の集落の懐かしい写真を見ながら思い出話をすることから始め、何度も学生の井澤さんと通い、集落を模型に再現。街並みが立体的に立ち上がると、皆さんの心に火がつき、「ここはあの人の家だ。」、「あそこにはこれがあった。」と盛り上がりました。専門家が寄り添いながら、再び地域をつなぎ合わせるという試みがいまも続いています。

能登島野崎町ジオラマワークショップ

2026.1.25
七尾市

輪島市朝市通り周辺 ジオラマワークショップ

2025.11.24
輪島市

あのころの輪島をジオラマに蘇らせる

ワイプラザ輪島にて７日間にわたり「記憶の街ワークショップ」が開催されました。この企画は、神戸大学減災復興デザインセンターと金沢大学能登里山里海未来創造センターが共催。両大学のほか、県内の大学や高専、富山からも学生が集結し、作り上げたのは５m四方の大きなジオラマ。地震が起きる前の輪島市街地の姿を、500 分の１の縮尺で再現されています。ワークショップの期間、建築を学ぶ学生が、地域の方々から思い出を伺いながら、真っ白な模型にいっしょに色を塗ったり、祭りのキリコなどのアイテムを追加していったり、ふるさとの風景がどんどん立ち上がっていきました。「もう二度と見られない景色が、いまも変わらずそこにあるような気がする」という声も聞かれました。

interview with　神戸大学　中岡和貴さん

地域の方々にとって、昔からなじみのあった場所がなくなってきています。僕は去年の夏以降、たびたび能登半島を訪れていますが、そのたびに建物の数が減っているなと実感しています。更地が増えていくと、ここに誰が住んでいたか、ここで何をしていたかという記憶も薄れてきてしまいます。そういった場所を再現することで、皆さんの記憶にある街が、模型上ではありますが残り続けます。過去３回の能登でのワークショップでは地域の皆さんに快く受け入れていただいてお話しもでき、地域を知ることができました。建築を学ぶ学生としてできることを精一杯やれたのかなと思っています。

column

現地で支援を受け入れている方の声

各地で進む復興支援のプロジェクト。その活動のなかで、外部の支援者と地域住民をつなぎ、現場を支え続けている方々がいます。支援を受け入れる側としての葛藤や喜び、活動を通じての気づきなど、３組の方々にお話を伺いました。

01　後藤ひとみさん

専修大学の研究室が能登島向田町第１団地で取り組んだ、ホップとじゃがいもの栽培をお手伝いしてきた後藤さん。収穫を記念して行なわれた交流イベントの会場で、感想を聞かせていただきました。

正直なところ、不安からのスタートでした。自分のために野菜を育てるのとはわけが違いますし、枯らしてしまったらどうしようという心配が一番大きかったんです。学生さんたちが残してくれた指示を頼りに、毎日写真を撮って報告する日々でした。

とくに今年の夏は本当に暑くて、途中でホップが茶色くなってしまったときは焦りましたね。学生さんも初めての経験だったので、いっしょに調べながらの試行錯誤でした。今日の日を迎えられて、少しでもお役に立てたのかなとホッとしています。

この仮設住宅がある東部地区は、もともと顔見知りばかりの小さなコミュニティなので、打ち解けるのは比較的スムーズ。それでも、かつての市役所職員としてのつながりもあってか、ひとみちゃんが言うならと皆さんが集まってくださるのはありがたいことです。最初は顔を合わせれば文句ばかりだった方々も、ここが仮設住宅としてはいい仕様であることをお話ししていくうちに、気持ちが変わっていきました。春に自宅へ帰る予定の方が、寂しくなるねと惜しむほど、距離がぐっと縮まったと感じています。

もちろん、外からの依頼をすべて受け入れて、日程調整や人集めに奔走するのは楽なことではありません。自分の用事を後回しにするので、投げ出したくなることもありますよ。でも、頼りにしてくれる皆さんがいる限り、これは私なりの恩返しだと思って腹をくくっています。無理のない範囲で、これからも皆さんと一緒に頑張っていければと思っています。

02　聖川つぼみさん

東北大学の研究室が野崎町へ通うなかで始まった、街並みを再現するジオラマ作りのワークショップ（p.38-39 参照）。地域の方々をまとめ、専門家とつなぐ役割を担っている聖川さんに、野崎集会所でお会いすることができました。

地震直後、私たちがいた簡易避難所には最大で 120 人ほどの方が身を寄せていました。お年寄りが多いなかで、私にできることは何だろうと考えたとき、それは情報の整理をすることだと思ったんです。役所にも何度もかけ合いました。阪神・淡路大震災のときもそうでしたが、こうした非常時こそ、情報が命。お風呂の整理券がいつ配られるのかなど、生活に直結する情報を、早く届けることに必死でした。

そんなふうに走り回っていた時期に、佃先生や井澤さんたちとのワークショップが始まりました。正直、最初は「模型を作って何になるんだろう？」という空気もあったんです。でも、井澤さんのような若い学生さんが何度も熱心に足を運んでくれる姿を見て、みんなの心が少しずつ動いていきました。いまでは、井澤さんが町を歩いていると、「おーい、井澤くん！」って声がかかるんです。彼を見かけるとみんな本当にうれしそう。

実際にワークショップをやってみると、それまで家に閉じこもっていた人たちも、模型を囲み合う。景色を一つひとつ再現する過程が、コミュニティをつなぎ直してくれている感じがします。地震から時間が経ち、みんなが少しずつ自宅へ戻り始めると、どうしても以前のような交流は薄れてしまいがちです。でも、こうして接点を持ち続けることで、少しでも地域がつながるきっかけになればという思いで活動しています。

03　能登町社会福祉協議会の相談員の皆さん

能登ふるさとバス能登町便（p.36-37 参照）の運営をサポートし、当日も参加者の方々と同行した社会福祉協議会の相談員の皆さんからも、声を寄せていただきました。

・最初にこのプロジェクトのお話を聞いたときは、地元に残りたいけれど、やむを得ず金沢方面などへ移られた方々は、地元のいまを見たいと思っておられるはずですし、喜んで参加してくださるだろうと感じたんです。道路状況が悪いなかでの長距離移動ということで、ご年配の方の体調面など不安もありましたが、名簿の中にお名前を見つけて再会を楽しみに当日を迎えました。次回こそは参加したいと楽しみにされている方の声も届いています。

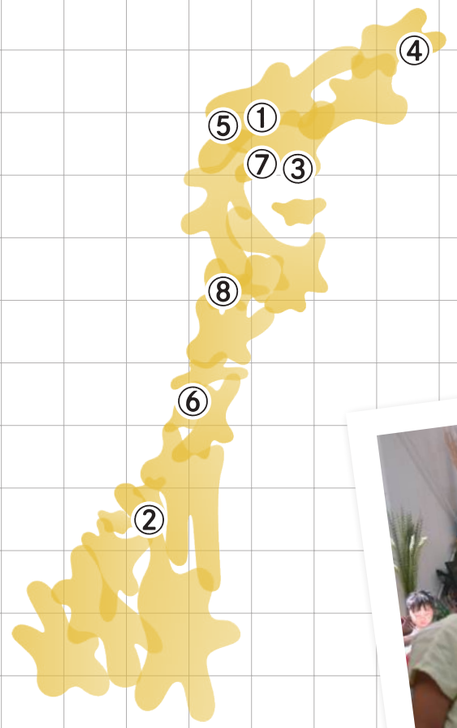
・当日は、皆さんが住み慣れた土地を離れ、慣れない場所で抱えてこられたやり場のない不安や喪失感に寄り添えるように心がけました 。久しぶりに故郷の知人と再会し、「〇〇さんやがいね！」、「知っとる人に会えてうれしいわ～」と喜び合う方もいらっしゃいました。同じように大変な思いをされた方同士、バスの中でもお話が尽きない様子でした。

・実際にふるさとの風景を目にされて、変わり果てた他地区のようすにがっかりされる方もいらっしゃいました。解体された土地を見つめる姿や、帰りたいけれど帰れないというつぶやきを耳にしたときは、胸が詰まる思いでした。

・今後は、現地に残っている方々との再会の場をあらかじめ設定したり、参加の公募をさらに広げたりしながらこうした機会を継続していくことが大切だと感じています。

ぎょうじを楽しむ

広場から聞こえてくる声、ふわりと漂うおいしい匂い。
音や香りに誘われて、自然と住民の皆さんが集まってくることも。ときには懐かしい顔ぶれで、お茶を片手に語り合うひととき。
日常から少し離れて、イベントを通じて心が華やぎ、おいしいものを囲んで一緒に笑い合う。
そんな大切な時間が、少しずつ形を変えて、戻ってきています。



①輪島市 本郷公民館（p.44）
②白山市 福祉ふれあいセンター（p.44）
③穴水町 兜公民館（p.44）
④珠洲市 憩いハウスにこまるぱん（p.44）
⑤輪島市 門前公民館（p.45）
⑥内灘町 室公民館（p.45）
⑦穴水町 保健センター／穴水町商店街 (p.46-47)
⑧羽咋市 LAKUNA はくい (p.48-51)

キッチンカーの派遣

2025.7.24/8.14
白山市 / 輪島市

おいしい食べ物は皆で集まる良い理由

白山市の福祉ふれあいセンターや輪島市の本郷公民館で開催されたイベントにキッチンカーが派遣され、参加者の皆さんはかき氷を食べるなど、夏らしいひと時を味わいました。参加者からは、「お祭りを再開するにはまだ時間がかかるけれど、キッチンカーは準備の手間をかけずに皆で楽しめる。」、「集まっておしゃべりできる機会をもてるのはうれしい。」といった声が寄せられました。

甲地区の納涼祭

2025.8.13
穴水町

地域の夏の恒例行事を絶やさず、皆で楽しむ

穴水町甲地区の夏の恒例行事、納涼祭。高齢者や住民が安全に安心して暮らせるようにと、未来に向けて活動している「穴水町甲復興団」のメンバーが中心となって、地震の後も開催を続けています。カラオケや縁日など、大人も子どももいっしょになって楽しんだ後、夜には打ち上げ花火も。穴水町甲復興団は、月に１回「甲復興カフェ」も企画していて、皆が定期的に集まる機会を作っています。

子ども食堂

2025.9.27
珠洲市

子どもも大人も集える地域の拠りどころ

憩いハウスにこまるぱんを主催するのは、川東敬子さん。ご自身も被災するなかで、自宅の１階を地域の方々が集まれる場に。子どもたちが無料で食事を楽しみ、大人も輪に入れる「にこまるぱん食堂」を開催しています。また、普段から小学生が放課後に立ち寄って宿題をするなど、安心できる居場所となっています。演奏会や困りごと相談なども行なわれ、世代を問わず交流が続いています。

2025.9.26
輪島市

ふれあい喫茶

誰もが不安を取り除けるよう地域の絆を育む、お茶の時間

障害をもつ方々が自立した生活を送れるよう、地域に根ざした支援を続けている「夢かぼちゃ」。地震を経て、その役割はさらに重要なものとなっています。障害の有無にかかわらず、地域の誰もが不安のない生活を送ることができるよう、人と人とのつながりを作るインクルーシブな機会や場を積極的に提供しています。具体的には、七浦地区に住む方々を車で送迎してお茶会を開催したり、門前町と七浦地区の住民がいっしょにお菓子やコーヒーを囲んで会話を楽しむふれあい喫茶を運営したりしています。障害のある方々がお茶会や喫茶のお手伝いを担う場面もあり、共に支え合う温かな時間が流れています。

2025.8.2
内灘町

内灘町室区の住民ふれあい会

皆で集う定期的な機会を食べて、笑い合うイベント

内灘町のなかでもとくに液状化被害が大きかった室区。夏と秋に開催され、親しまれてきたお祭りが中断されてしまっていました。そうしたなかで仮設住宅団地の造成が進んでいき、地震で避難した住民同士が触れ合える機会が必要だという声が地域から上がってきました。

そこで、自治会が中心となって企画・運営を行なったイベントが「住民ふれ合い会」です。年間５回にわたって定期的に開催され、皆で食事を楽しむほか、お菓子の詰め放題やヨーヨー釣り、住民による歌唱パフォーマンスなど、大人も子どもも参加できる催しが用意されていて、笑顔を交わす時間となっています。

フードアナリスト鈴木亜美による料理教室 in 穴水

2026.2.27
穴水町

元気をもらえる特別なレシピのおすそ分け

フードアナリストの資格をもつ歌手の鈴木亜美さんを講師に招き、穴水町の保健センターで料理教室が開催されました。鈴木さんから教わったのは「豚バラとしいたけの和風角煮」と「からし菜の混ぜごはん」の二品。いずれも細かく計量はせず、素材の持ち味を活かすレシピです。参加者からは、「じつはからし菜は地元でもあまり使う機会がないので、いい機会でした。」、「鈴木亜美さんの昔からのファンだし、料理も好き。初めてお会いする方とイベントをきっかけにおしゃべりも楽しめて、ありがたい機会でした。」といった声が寄せられました。

上）和風角煮は、豚バラブロックにしいたけ、里芋を合わせて煮込み、仕上げに昆布だしと塩で味を調整。混ぜごはんに使ったのは、下唐川で採れたからし菜。「からし菜は辛みが強いと聞いていたので少しドキドキしていましたが、食べてみたらさっぱりとしていて、ほどよいアクセントになりました。地元の皆さんも『またぜひ作ってみたい』と言ってくださって、大成功でしたね」と鈴木さん。

interview with 鈴木亜美さん

久しぶりに穴水に帰ってこられて（前回は 2025 年 9 月にイベントに合わせて来訪）、本当にうれしいです 。道中、工事をされている場所を見かけて、復旧がもっと早く進んでほしいなと思ったりもしましたが、皆さんの顔を見るとすごく元気があって。むしろ私がパワーをもらっちゃいました。今回の料理教室のレシピは、私の「家の味」なんです 。事前に食材のご相談をしたときに、豚肉やしいたけ、からし菜というキーワードが出てきて、ピンときました。鈴木家ではお正月に大きな鍋でドーンと作るのが定番です 。私自身、節目に食べると元気になれる大切な味なので、一緒に味わいたいと思って準備してきました。料理も皆さんすごく上手ですし、私の知ってる味を食べていただけることがうれしかったです。味つけはとってもシンプルなので、夕食のメニューに困ったときに、自由にアレンジして作ってみていただけたらと思っています。こうして料理を作って、一緒に食べることで、皆さんと親戚みたいにどんどん距離が近くなっていけることを、とても幸せだと感じます。今回限りではなく、これからも「ただいま！」って顔を出したいと思っています。

穴水町商店街復興にぎわいかきまつり 鈴木亜美トークショー

2026.2.28
穴水町

穴水の牡蠣を皆で心ゆくまで楽しむ一日

料理教室の翌日、鈴木亜美さんは穴水町商店街で開催された「復興にぎわいかきまつり」を訪れました。会場には新鮮な穴水産の牡蠣をその場で堪能できる炭火焼きコーナーが設けられたほか、各ブースにも旬の味覚が揃い、あたりは活気に包まれました。

そんななか、特設ステージでは鈴木さんとタレントの橘ゆりかさんによるトークショーが実現。お二人の明るい掛け合いが、会場に温かな笑顔を届けてくれました。

上）トークショーの終盤、話題は自身のキャリアや夢の見つけ方に。親元を離れてデビューした当時を振り返った鈴木さんは、会場の女性から「県外へ出る高校３年生の娘が心配」という悩みが寄せられると、「親にできるのは、いつでも帰ってこれる場所があるよ、私は味方だよと伝えてあげること。それだけで子どもは強く立っていけるもの」とエールを送り、会場は共感に包まれた。

interview with 鈴木亜美さん

トークショーの前に、会場から私のデビュー曲を歌うカラオケの声が聞こえてきて、皆さんの愛を感じました。穴水の方々は温かくて、なんだか親戚のような親しみやすさを感じています。実は去年の夏に仮設住宅へ伺った際、地元の皆さんが「穴水の牡蠣は有名なんだよ。」、「冬にお祭りがあるから絶対に来てね！」と、気軽に誘ってくださったんです。その約束がずっと心に残っていたので、こうして再会を果たせて幸せです。

お目当ての穴水の牡蠣は、小ぶりで雑味がなく、後味はすっきり。もともと大の牡蠣好きということもあって、いくらでも食べられてしまいますね。海産物はもちろん、能登は本当に素晴らしい場所だと改めて実感しました。次はファンクラブで旅行を企画してみようかな、なんて、新しいアイデアが次々とわいてきます。

石川ひとつなぎフェスタ

2026.2.23
羽咋市

羽咋市の交流拠点「LAKUNA はくい」で、「石川ひとつなぎフェスタ」が開催されました。会場には各市町から大勢の参加者が集まり、メインイベントのモルック大会をはじめ、かつての街並みを振り返るジオラマ展示や多彩なワークショップなどが用意されました。共に汗を流し、大切な記憶を語り合い、穏やかな時間を共有するひととき。お天気にも恵まれ、活気に包まれた一日となりました。

市町別チーム対抗 モルック大会

プレーの合間にも、参加者は久しぶりに再会した同郷の方々とおしゃべりに花を咲かせたり、お弁当やキッチンカーの食事を囲んで輪になったりと、会場は終始にぎやかな雰囲気に包まれていた

練習を積んできたチームも
初心者のチームも皆、奮闘！

イベントのメインを飾ったのは、フィンランド発祥のスポーツ、モルックの大会です。モルックは、木製の棒（モルック）を投げ、数字の書かれたピン（スキットル）を倒して得点を競う競技で、ルールがシンプルかつ激しい動きを必要としないため、体力に自信のない方や運動経験がない方でも気軽に参加できるのが大きな魅力です。各市町を朝早く出発しバスで会場に訪れた計 21 チームは、交流スペースを使って練習したり、声をかけ合って準備体操をしたりと気合十分。想定以上にたくさんのチームが集まったため、会場のスペースの関係で普段とは異なる距離感でのプレーに戸惑う参加者も見られましたが、徐々に感覚を掴んでいきました。この日初めてモルックを体験するチームもありましたが、石川県モルック協会のサポートもあり、皆さんすぐにルールを習得。和気あいあいと進行しました。

会場では、ラジオパーソナリティの松岡理恵さんがメイン MC を、ゲストの大平まさひこさん、月亭方気さん、かはづ亭みなみさんの３名が試合のゲスト MC を担当。プロのトークで会場を沸かせるだけでなく、自らも練習の輪に加わって参加者と交流し、会場は大いに盛り上がりました。なかには、この大会に向けて毎日練習を積んできたチームもあり、スキットルを倒すたびに大きな歓声が。熱戦の結果、1 位に輝いたのは能登町の「能登柳田」チーム。次いで 2 位に七尾市の「三引三寿会」、3 位には志賀町の「チーム Togi」が入りました。タレントの皆さんからの特別賞も用意され、表彰式では互いの健闘をたたえ合う拍手が送られました。

タレント座談会

県内各地を数十回にわたり訪れてきた三名のトーク

モルック大会の締めくくりには、大平まさひこさん、月亭方気さん、かはづ亭みなみさんによる座談会が行われました。これまで何十回も能登に通ったお三方。能登における楽しいエピソードや体験談が語られました。進行をつとめたのは、松岡理恵さん。

かはづ亭さんは、地震当日の元旦に珠洲市の禄剛崎灯台へ初日の出を見に行っていたエピソードを明かしました。あの日、自分がなぜあの場所にいたのかとモヤモヤを抱えてきましたが、能登での活動を続けるなかでの使命感へと変わっていった実感を語りました。

七尾出身の月亭さんは、地震から１ヵ月足らずで能登での落語を始めたそうです。当初は、笑える状況ではなく涙を流す観客もいらっしゃいましたが、その後も通い続けるうちに、皆さんが少しずつ笑顔を取り戻していく姿を肌で感じ、それが芸人としての大きな力になっていると話しました。

大平さんは、避難を余儀なくされている方々と対話をするなかで、当初はどう声をかけるべきか迷っていたそうです。しかし、実際には住民の方から「頑張りや」と励まされ、自分の方が元気をもらうような交流があったことを明かしました。

そしてお三方とも、能登を訪れるたびに触れる特有の温かさとおもてなしに深く感銘を受けたといいます。ステージの後に手作りのぜんざいをいっしょに食べたり、帰り際には畑で採れたばかりの野菜やケータリングのお菓子を袋いっぱいに持たせてもらったりと、タレントと観客の垣根を越えた心の通う交流を振り返りました。質問タイムの後には、お三方から、これからも能登を訪れていきたいという力強い意志が伝えられ、会場は温かな空気に包まれました。

・左から
松岡理恵さん、かはづ亭みなみさん、大平まさひこさん、月亭方気さん

ものづくりワークショップ

手作りの楽しさに触れて大人も子どもも夢中に

ハーバリウムとコースター、水引を作るワークショップは世代を問わず好評。丁寧なレクチャーを受けながら色とりどりの素材を組み合わせ、自分だけのオリジナル作品を作る体験を、幅広い層が楽しんでいました。モルック大会の参加者も試合の合間に手作りに没頭し、賑わいを見せました。

輪島市朝市通り周辺ジオラマ展示

地域の方々の記憶を集めて蘇る街の姿と思い出

500分の１のスケールで、輪島市朝市通り周辺の街並みを再現したジオラマの展示が行われました。これは、神戸大学の槻橋修教授を中心としたチームが進めている、被災前の街の姿を形に残す取り組みです。最初は真っ白な模型ですが、１週間にわたるワークショップのなかで、住民たちが自らの家を探し、屋根の色を塗ったり当時の思い出を語り合ったりすることで、模型に色がつき、情報の密度が徐々に上がっていきました（p.40参照）。

この展示を心待ちにしていた方々も多く、ある来場者は「ジオラマのことを新聞で知り、本当は輪島まで見に行きたかったけれど、いまは輪島を離れて暮らしているため叶わなかった。今回、羽咋で開催されると聞いて電車に乗ってきた。」と、この機会への思いを語ってくださいました。

かつて朝市通り周辺に住んでいた方々が、ジオラマの中で自身の生活の場を指で追いながら、当時の記憶やエピソードを語り合う姿も。また、デジタル上で思い出がアーカイブされたジオラマを閲覧できるスペースも用意されました。最新技術と組み合わせることで多角的に街の記憶に触れることができる形として、期待を寄せる参加者の姿も見られました。

VR 世界旅行体験会

子どもも大人もいつか行きたいあの場所へ、思いを馳せて

専用のヘッドマウントディスプレイを装着し、バーチャルリアリティ（VR）で世界各地を旅する体験コーナーも。この活動は、登嶋健太さんが介護の仕事に携わるなかで、外出がむずかしい方にも景色を楽しんでほしいという思いから生まれたアイデアです。屋久島、ハワイ、南アフリカの３ヵ所から好みの行き先を選ぶことができ、参加者は目の前に広がる絶景を擬似体験しました。

キッチンカー

イベントを楽しむ合間に、おいしい食事でほっとひと息

会場の外には、中華とたこ焼き、宇都宮餃子のキッチンカーが並びました。地域の食材を活かした飲食店が集まり、温かい料理を提供。モルック大会の合間に楽しむ参加者や子どもたちから人気を集めていました。

取材：ほぼ日

column

「石川ひとつなぎ」はどのように生まれたのか

右上）能登ふるさとバス能登町便（p.36-37 参照）に、山西さんと東郷さんが同行した時の一枚。左、右下）組手什・棚づくりワークショップ（p.26 参照）の際に、参加者の方々に筆で「石川ひとつなぎ」と書いていただいた。この機会を皮切りに、さまざまなワークショップで参加者にご協力をお願いした。

「ひと」と「ひと」が つながっていく

石川県能登半島地震地域コミュニティ再建事業で行なわれてきた多様な催しに、金沢美術工芸大学河崎研究室の山西優心さんと東郷荘太郎さんは 30 日間にわたって密着取材を行ないました。その記録を映像化する過程で生まれたコンセプトが「石川ひとつなぎ」です。

ネーミングの背景には、取材を通して触れた被災者の方々の内なる声がありました。迷いや葛藤を抱えながらも、手を取り合い歩みを進めようとする姿から「人繋ぎ」というイメージが形づくられていきました。支援の輪が市町の枠を越え、県内各地へ広がっているようすもこの言葉に集約されています。

ロゴマークには、各市町の特色を反映しました。珠洲市であれば珠洲焼を象徴するグレーを採用するなど、彼らが想起するイメージから地域ごとに色彩を設定。そこに、催しに参加した方々が書き記した 104 通りの筆跡を組み合わせて構成しています。

各地域でコミュニティ再建事業を担った団体と活動一覧

農業や食を通した交流型イベント（NPO 法人クロスフィールズ）
コミュニティ形成をはかる復興まちづくりワークショップ（千葉大学）
コミュニティスペースを活用した交流（BIG UP 大阪）
士業による相談会開催（能登復興建築人会議）
住環境整備を兼ねた屋外交流サロン（災害ボランティア愛・知・人）
交流サロンや音楽イベント開催（自由研究）
屋台づくりワークショップ、屋台を活用したイベント（カモメ・ラボ、早稲田大学 宮本佳明研究室）
「正院町未来会議」の運営（正院町まちづくりワーキンググループ）
ファイナンシャル・プランナーによる相談会（NPO 法人日本ファイナンシャル・プランナーズ協会）
家屋の応急対応相談会、交流サロン（珠洲市災害ボランティアセンター）
芸術家による公演とワークショップ（奥能登珠洲ヤッサープロジェクト）
味噌づくりを通した広域避難者向け交流会（ネッスー株式会社）
「三宅藤九郎の狂言ワークショップ」の開催（狂言 和泉流宗家）
子どもの遊び場運営（bousaring）
まちづくり伴走支援・勉強会（高屋いとなみ基金）
「みんなの保健室わじま」運営；多職種（看護師・管理栄養士等）による健康相談（みんなの健康サロン海凪）
おしゃべりコーヒー交流会（一般社団法人 sien sien west）
クリスマスケーキづくり、餅つき、年越しカウントダウン（NGO 魅来～笑顔届け隊）
珠洲市ほっと一息ほっこりカフェ（長野りんどうライオンズクラブ）
珠洲市大谷地区の住民主体の交流イベント（外浦の未来をつくる会）
仮設住宅や公民館での映画上映、高齢者ワークショップ（小さな上映会）
ペット飼育者向けマナー教室・交流会（能登まほろばプロジェクト）
仮設住宅に住む高齢者の通いの場「ちょっこし集まろ会」（災害支援団体ロッツ）
雑貨づくりワークショップなどを通した交流サロン（石川県災害ボランティア協会）
春蘭の里おしゃべり住民交流サロン（株式会社 AERUNE）
記憶の街ワークショップ (珠洲・寺家 / 能登町小木・九十九湾 / 輪島）（神戸大学減災デザインセンター・金沢大学能登里山里海未来創造センター）
交流サロン、困りごと相談会（珠洲ひのきしんセンター）
地域の記憶を可視するジオラマ模型作製ワークショップ（青葉工学振興会・東北大学 佃悠研究室）
磐持大会、風と光のふるさと Garden Karaco の音楽イベント（支援団体プロジェクト K）
コミュニティ菜園づくり、屋外カフェ（NPO 法人 LOVE EAST）
子ども食堂、学習支援（憩いハウスにこまるぱん）
花壇づくり、ランチマーケット、盆踊り（穴水町甲復興団）
住民ふれ合い会（内灘町室区）
2025・復興を願った区民交流会（内灘町宮坂区）
ふれあい喫茶、七浦コミュニティ支援（NPO 法人夢かぼちゃ）
植物野菜栽培やクラフトドリンクづくりを通した地域交流会（専修大学まちづくり GDX ラボ）
子育て世代の交流会（一般社団法人二ミリ）
保健師のいるおしゃべり会、体操、手芸教室、遊び場づくり（災害支援 NPO ありんこ）
石川県全域で開催する共通メニューの実施（株式会社日本エージェンシー)

石川県能登半島地震地域コミュニティ再建事業に関わった団体等

（以下順不同・敬称略、p.54 掲載団体除く、令和 8 年 2 月現在）

【連携団体】

金沢市社会福祉協議会
七尾市企画振興部地域づくり支援課
七尾市社会福祉協議会
小松市社会福祉協議会
輪島市各種支援調整窓口
珠洲市復旧・復興本部事務局
珠洲市社会福祉協議会
羽咋市社会福祉協議会
白山市社会福祉協議会
野々市市社会福祉協議会
津幡町社会福祉協議会
内灘町総務課
内灘町社会福祉協議会
志賀町社会福祉協議会
宝達志水町社会福祉協議会
中能登町社会福祉協議会
穴水町社会福祉協議会
能登町復興推進課
能登町健康福祉課
能登町社会福祉協議会
石川県社会福祉協議会

【協力団体等】

東京大学千葉学研究室・株式会社千葉学建築計画事務所
神戸大学槻橋修・浅井保研究室
金沢大学西野辰哉・藤井容子研究室
金沢大学豊島祐樹研究室
富山大学萩野紀一郎研究室
金沢工業大学竹内申一研究室
石川工業高等専門学校熊澤栄二研究室
早稲田大学宮本佳明研究室
近畿大学岡村健太郎研究室
専修大学佐藤慶一研究室
千葉大学齋藤雪彦研究室
法政大学大学院デザインスタジオ（岩佐・渡スタジオ）
石川県立飯田高等学校
石川県立穴水高等学校
穴水町立穴水中学校
能登町小木公民館
石川県穴水町下唐川地区
株式会社あすなろファーム
石川県行政書士会
石川県司法書士会
石川県社会保険労務士会
石川県中小企業診断士会
石川県土地家屋調査士会
金沢弁護士会
住宅金融支援機構 北陸支店
日本弁理士会北陸会石川地区会
北陸税理士会
株式会社 JTB　金沢支店
国際協力機構 北陸センター
一般財団法人ポケモン・ウィズ・ユー財団
認定 NPO 法人レスキューストックヤード
公益社団法人ピースボート災害支援センター
公益社団法人青年海外協力協会
d4g ボランティア部
復興リハビリテーション支援事業穴水町担当
復興ほっこりマルシェフェスタ実行委員会
エイベックス・マネジメント・エージェンシー株式会社所属　鈴木亜美
エイベックス・マネジメント・エージェンシー株式会社所属　橘ゆりか
一般社団法人デジタルステッキ
旅介 TV
日本司法支援センター (法テラス)
東保之
株式会社総合園芸
一般社団法人のと復耕ラボ＋古材 create 青組
株式会社ワタナベエンターテインメント所属　にゃんこスター
フリーアナウンサー　平見夕紀
洲崎舞子
二川亜衣子
NTT 西日本株式会社 北陸支店
テルウェル西日本株式会社 北陸支店
社会福祉法人石川県視覚障害者協会
和倉温泉あんま組合

イベントアイディ
石川県モルック協会
有限会社七尾自動車教習所
Salon M ＆ M
株式会社エイドル
株式会社クロスロード
水引 art 波華
felt toy yawayawa
＊ mi ＊
大平まさひこ
吉本興業株式会社所属　月亭方気
東映東京撮影所俳優ユニット所属　かはづ亭みなみ
吉本興業株式会社所属　ぶんぶんボウル
ラジオパーソナリティ　松岡理恵
ミキトバンド
加賀山昭
加賀山紋
石川元気応援隊ジャンピン
ほくりくアイドル部
マジシャン冴木ゆう
マジシャン RENA
有限会社 Otk 大竹仏壇製作所　沈金師 瀬戸理紗子
フルタニランバー株式会社
親子支援・災害看護支援＊てとめっと
FSC　中井史花
ダイワ通信株式会社
高咲堂

【事務局運営】
株式会社都市環境マネジメント研究所（担当：西川和宏・前田拓磨）
プレイリー株式会社（担当：三原亮一）

【コミュニティ活動開催場所】

＜七尾市＞
グループデイなごまんかいね
コミュニティハウス　喜楽々
パトリア
ベイモール七尾
やまびこ荘
円通山　恵眼寺
下町センター
旧北嶺中学校
郷橋ふれあいセンター
御祓地区コミュニティセンター
高階地区コミュニティセンター
佐味町集会所
崎山地区コミュニティセンター
三室町会館
桜町会館
石崎地区コミュニティセンター
能登島大橋ロードパーク
多根町ふれあいセンター山びこ荘
大野木農村多目的センター
中島町塩津集会所
向田集会所
祖母ヶ浦町集会所
能登島地区コミュニティセンター
南集会所
閨集会所
石崎小学校
菅原集会所
西藤橋町会館
西湊地区コミュニティセンター
袖ケ江地区コミュニティセンター
中浦ふれあいセンター
中島山戸田集会所
中島地区コミュニティセンター
中島地区コミュニティセンター熊木分館
中島地区コミュニティセンター西岸分館
中島地区コミュニティセンター豊川分館
中島地区コミュニティセンター鉈打分館
中島地区コミュニティセンター笠師保分館
田鶴浜地区コミュニティセンター
東湊小学校
東湊地区コミュニティセンター
徳田地区コミュニティセンター
徳田町集会所
南藤橋集会所
南藤橋町会館
能登演劇堂
八幡町集会所
飯川神社会館
福勝寺
和倉地区コミュニティセンター
和倉東町町内会事務所
矢田郷地区コミュニティセンター
和倉温泉お祭り会館
旧石崎保育園
野崎多目的集会所
本府中町第 1 団地
能登島向田町第 1 団地
矢田新町第 1 団地

＜輪島市＞
ILON(アイロン)
コミセン鳳至 BASE
コミセン門前 BASE
ふらっと訪夢
ふれあい健康センター
ふれあいプラザ二勢
地域交流拠点まちのの間
阿岸公民館
伊勢神社（輪島市石休場町）
浦上公民館
下黒川集会所
下本郷集会所
河原田公民館
河原田消防分団
皆月多目的集会所
門前公民館
港公民館
鵠巣公民館
黒島公民館
三井公民館
七浦公民館
諸岡公民館
上本郷集会所
大屋公民館
町野公民館
東陽中学校
道下集会所
南志見公民館
鳳至公民館
本郷公民館
本市集会所
名舟集会所
門前高等学校
禅の里交流会
矢徳集会所
輪島 KABULET
輪島公民館
シルバー人材センター
輪島診療所
輪島中学校
輪島病院
剱地公民館
もんぜん児童館
輪島市裁判所
一互一笑
真行寺
奥能登広域圏事務組合消防本部
ワイプラザ輪島
マリンタウン第 2 団地
河井町第 4 団地
横地町第 1 団地
三井町第 1 団地
山岸町第 2 団地
山岸町第 3 団地
七浦第 1 団地
杉平町第 2 団地
大野町第 1 団地
宅田町第 1 団地
宅田町第 2 団地
二俣町第 1 団地
本郷第 1 団地
里町第 1 団地
小伊勢町第 1 団地
稲屋町第 1 団地

＜珠洲市＞
ピースウインズ・ジャパン珠洲事務所
横山集会場
旧正院保育所
健民体育館
若山公民館
産業センター
特別養護老人ホーム第三長寿園
蛸島公民館
直公民館
日置公民館
飯田公民館

宝立公民館
宝立小中学校
飯田高等学校
道の駅すずなり
須須神社
大浜集会所
川本本町集会所
下出集会所
珠洲商工会議所
飯田わくわく広場
特別養護老人ホーム長寿園
つばき保育園
若山小学校
大谷小中学校
飯田小学校
生涯学習センター
正院公民館
本町ステーション
上戸公民館
三崎公民館
旧上戸保育所
野々江総合公園
スズズカ（旧飯塚保育所）
高屋多目的集会所
フレッシュライン見附公園
憩いハウスにこまるぱん
上黒丸小学校
潮騒レストラン
大谷公民館
珠洲市役所
ラポルトすず
正院町第 1 団地
正院町第 2 団地
正院町第 3 団地
宝立町第 1 団地
宝立町第 2 団地
宝立町第 4 団地
蛸島町第 1 団地
蛸島町第 4 団地
蛸島町第 6 団地
三崎町第 1 団地
三崎町第 2 団地
三崎町第 3 団地
野々江町第 2 団地
野々江町第 3 団地
上戸町第 1 団地
上戸町第 2 団地
上戸町第 3 団地
折戸町第 1 団地
若山町第 4 団地
大谷町第 1 団地

＜志賀町＞

しおさい集会所
はまなす集会所
旭ヶ丘集会所
甘田集会所
給分会館
牛ヶ首集会所
小浦集会場
小浜会館
赤住公民館
千鳥ヶ浜集会所
川尻集会所
大津集会所
大島集会所
地頭町会館
中浜公民館
稗造防災センター
百浦集会所
富来防災センター
福井集会所
福浦公民館
福野集会所
仏木集会所
米浜集会所
北吉田集会所
堀松集会所
領家町コミュニティセンター
ＪＡ志賀訪問介護センター
とぎ第 2 団地
とぎ第 8 団地

＜穴水町＞

鹿波集会所
甲駅
兜公民館
風と光のふるさと Garden Karaco
曽良集会所
B&G 海洋センター
ボラまち亭
諸橋公民館
穴水町役場
甲ボラまち館
さわやか交流館プルート
あなみずスマイルマルシェ　雁月
スーパーマーケットどんたく　穴水店
健康センター
穴水町商店街
由比ケ丘団地
川島第 2 団地
下唐川第 1 団地
下唐川第 2 団地

＜能登町＞

ケアハウス縄文
こどもみらいセンター
コンセールのと
セミナーハウス山びこ
鵜川公民館
久田集会所
九里川尻集会所
三波公民館
山口集会所
寺五地区生活改善センター
能登七見健康福祉の郷「なごみ」
秋吉公民館
小間生公民館
小木地域交流センター
松波公民館
松波神社会館
上集会所
上町公民館
新村商会
新保公民館
瑞穂公民館
清真集会所
石井集会所
曽又集会所
大屋根広場
大平集会所
第二長寿園
第 2 八幡町集会所
坪根区民センター
坪根集会所
程谷集会所
天坂集会所
当目集会所
内浦総合支所
内浦長尾集会所
日詰脇集会所
能登町役場
能都中学校
白丸コミュニティ施設
姫交流センター
不動寺公民館
布浦集会所
矢波集会所
柳田公民館
立壁集会所
恋路集会所
老人憩いの家たなぎ荘
老人福祉センター笹ゆり荘
柳田小学校
宮地交流宿泊所　こぶし
白丸公民館
イカの駅つくモール
まつなみ第 1 団地
まつなみ第 2 団地
うかわ団地
ふじなみ第 1 団地
おぎ第 2 団地
しろまる団地

＜金沢市＞

勤労者プラザ
石川県地場産業振興センター
松ヶ枝福祉館
西健康福祉友の会会館えがお
石川県立図書館

＜小松市＞

第一地区コミュニティセンター

＜羽咋市＞

宇宙科学博物館 コスモアイル羽咋

LAKUNA はくい

＜白山市＞

福祉ふれあいセンター

＜野々市市＞

地域支え合いセンター野々市

にぎわいの里ののいちカミーノ

＜津幡町＞

福祉教育プラザ

文化会館シグナス

＜内灘町＞

文化会館

内灘町役場

室公民館

宮坂公民館

＜宝達志水町＞

宝達志水町民センターアステラス

＜中能登町＞

生涯学習センターラピア鹿島

【事業実施】

石川県 能登半島地震復旧・復興推進部 生活再建支援課

（担当：嘉門佳顕・小畠晃・髙橋峻也・中尾友彦・川口哲平 / 藤井健 ※ ）

※国際協力機構北陸センターの国際協力推進員

認定 NPO 法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）

石川ひとつなぎ
「何しとるんや」から一歩ずつ。
あちこちで始まる、集いの記録

2026 年 3 月 発行
制作：
株式会社ほぼ日　佐藤泰那
山西優心
株式会社日本エージェンシー（担当：松本拓也・高滋央・中﨑大聖）
発行：
特定非営利活動法人（認定 NPO 法人）全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）
〒 100-0004 東京都千代田区大手町 2-2-1 新大手町ビル 267-B
TEL：080-5961-9213　　https://jvoad.jp/

無断転載禁止
© 2026 JVOAD

ささやかな
ひと声ずつの重なりが
「ひと」と「ひと」を
つなげていく